

青森県小児糖尿病サマーキャンプでの栄養サポート事業

職・氏名： 助教 熊谷貴子

所属学科： 栄養学科

I. 事業の背景

小児糖尿病サマーキャンプは、公益社団法人日本糖尿病協会が1967年から全国各地で主催している事業である。青森県においても同様に、1型糖尿病患者の小・中・高校生を対象に3日間のキャンプを実施している。キャンプの目的は、子どもたちが自然の中で集団生活を通じたインスリン自己注射や血糖自己測定、食事のとり方など、自己管理に必要な糖尿病の知識と技術を身につける事である。また、同じ仲間と親しくなること、励まし合える仲間づくりの場となっている。過年より、本学看護学科の教員と学生が参加しキャンプの支援を行ってきたが、今年度は初めて栄養学科からも参加をした。

II. 目的

本事業の目的は本学が青森県小児糖尿病サマーキャンプへの参加を通して、患児や保護者が食事管理の知識や技術を身に付けられるよう栄養サポートを実施し貢献することである。

III. 参加者

1. 大学

栄養学科4年生 4名、栄養学科教員 1名

2. キャンプ全体

キャンパーの児童・生徒とその保護者、ヤングの会（キャンパーOB・OG）、医師、薬剤師、看護師、管理栄養士、医療メーカー、保健大学看護学科教員、学生等、約110名

IV. 事業の内容

1. キャンプ期間中におけるキャンパーの子どもたちへの食事管理とサポート
2. 野外炊飯の企画と運営
3. レクリエーションの企画と運営

V. 事業の効果

青森県小児糖尿病サマーキャンプが本学、本学栄養学科と連携することによって得られる効果は、①子どもたちのみならず保護者に対しても、栄養管理の知識を得る事ができ、②キャンプ内での管理栄養士が担当する仕事の種類や幅が広がったことである。

①については、本学の栄養学科が栄養に関係するゲーム（果物の単位当てゲーム）を実施したことにより、子どもも保護者も食事に関する知識の提供の機会となった。子どもたちからは、ゲームの回数が少ない、保護者からは簡単に楽しく食べ物の単位把握ができたという感想が得られた。次回、キャンプへ参加の機会が得られれば意見を参考にイベント内容の改善を検討す

る。②は、これまでは県内病院の管理栄養士が数名で食事管理や栄養教室を担当していたが、本学栄養学科が参加したことにより、管理栄養士が子どもたちへの栄養管理に関わる時間が増え、また栄養の知識を得るイベント時間が増えることとなった。

青森県小児糖尿病サマーキャンプに本学が今後も参加をすることで、小児糖尿病患者や保護者に対して将来にわたっての栄養管理の方法や大切さを継続的に支援できると考えられる。

<食事分量の単位表示の様子>

